

無痛分娩説明書

『無痛分娩』

- 1) 無痛分娩とは麻酔を使用する分娩方法で、「痛みが全くなくなる」という結果ではなく、プロセスを表した言葉です。無痛分娩はすべての痛みを取り除くのではなく、最低限の痛みを抑えるものです。麻酔の効き方には個人差があります。当院では硬膜下麻酔を使用して無痛分娩を行います。
- 2) 当院における無痛分娩は産科医師を中心に対応しております。原則として全例計画分娩とし、陣痛が始まってから麻酔を開始するものではないので、日祝日や夜間・時間外の対応は行っておりません。

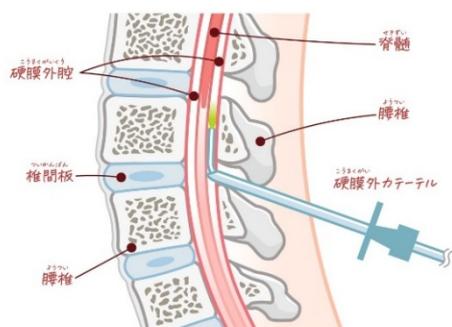
『麻酔を受ける方に守っていただきたいこと』

1) 既往歴の申し出

今までに経験した、あるいは現在も治療中の病気は必ずお知らせください。
特に麻酔や手術の経験は忘れずに申し出をお願いします。

『硬膜外麻酔について』

無痛分娩においては最も代表的な麻酔方法です。脊柱（背骨）の骨の隙間から針を挿入し、硬膜外腔という空間に直径1mm以下のカテーテル（管）を留置します。このカテーテルから麻酔薬を入れることにより、分娩の痛みを軽減します。麻酔開始後、約30分で痛みが抑えられていきます。麻酔効果が不確実な場合には、カテーテルを入れ替えることがあります。



『無痛分娩のメリット・デメリット』

【メリット】

- 1) 陣痛の軽減により落ち着いて分娩に臨むことができる
- 2) 分娩時の疲労が少なく、産後の回復が早くなる

【デメリット】

- | | |
|----------------|--------------------------|
| 1) 副作用 | 2) 合併症 |
| ◆ 血圧の低下 | ◆ 頭痛 |
| ◆ かゆみ | ◆ 尿閉 |
| ◆ 体温上昇 | ◆ 硬膜外血種 |
| ◆ 産後の創部痛を強く感じる | ◆ 原因不明の神経障害 |
| | ◆ 多弁・興奮・耳鳴り・味覚障害（局所麻酔中毒） |
| | ◆ 呼吸停止・心停止（全脊髄くも膜下麻酔など） |

【麻酔の分娩への影響】

- 1) 分娩時間の延長（特に初産）
- 2) 鉗子分娩・吸引分娩の増加
- 3) 陣痛促進剤使用